

PRAEVIDENTIA DAILY (11月21日)

昨日までの世界：あまりハト派ではなかった議事要旨でドル上昇

昨日は、10月分FOMC議事要旨内容が、Yellen次期議長が主張しているような金融緩和継続の必要性を強調するというよりは、今後数回の会合で緩和縮小が可能とするなど、あまりハト派的でなかったと捉えられ、米長期債利回りが上昇、米株価が下落する中で、ドルが対主要通貨で概ね上昇した。特に豪ドルやNZドルは、米利回りの大幅上昇(10bps)を受けた米ドル高と、比較的流動性が高い米株価の下落の両方から下落圧力を受け、1%超の下落幅となった。他方、ドル/円は、議事要旨発表前に日中高値である100.24円を付けた後、米長期債利回り上昇には殆ど反応を示さず、むしろ米株安に下押しされたようなかたちで100円割れとなるなど、100円丁度を挟んだ横ばい圏内の動きが続いた。

ユーロは、欧州時間にタカ派で知られるWeidmann独連銀総裁が、一段の金融緩和は現時点で賢明ではない、とタカ派的な発言(独DieWelt紙報道)をしたことにはあまり反応せず、むしろその後関係者発言として、ECBは中銀預金金利をマイナス0.1%へ引き下げることを検討している、との報道が流れたことからユーロが大幅下落、1.3540ドル近辺から一時1.3415ドルへ下落、FOMCを受けたドル買いよりもこのニュースへの反応の方が大きかった。

FOMC議事要旨では、経済指標が労働市場の改善見通しに合致していれば、今後数回の会合で縮小ペースを落とすことができるとされ、3月ではなく1月FOMCでの縮小開始の可能性もあるとの見方に繋がったほか、最近複数の高官が指摘していたフォワードガイダンスにおける失業率基準(6.5%)の引き下げについて、2、3名が引下げを支持した一方、変更は当局の基準順守徹底を巡る懸念を引き起こす恐れがあるとして慎重論も展開されたことも、ハト派度が強くないとの印象を強めている。

この間、Fed高官発言では、ハト派として知られるDudley・NY連銀総裁は雇用増がFedが望むほど強くない、持続的な雇用増に必要な一段の経済成長が必要、とし目先の縮小開始に慎重姿勢を示した一方、Bullardセントルイス総裁は雇用統計が堅調なら12月FOMCでの緩和縮小の可能性は高まる、としたことがタカ派的と捉えられた。米経済指標面ではまちなちで全体としてドルに強い方向性を与えるに至らなかった。小売売上高(除く自動車・建材・ガソリン)は前月比+0.4%と市場予想を上回ったものの、前月計数が0.1%ポイント下方修正されたほか、中古住宅販売は512万件と市場予想を若干下回った。コアCPIは前年比+1.7%と前月および市場予想と同じ伸びとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、流動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	-0.02	-0.01	+0.01	+0.10	+0.09	-0.01	-0.4	-0.3	-0.0	+0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-0.7	-0.01	-0.02	-0.01	-0.10	-0.00	+0.09	-0.1	-0.4	+0.8	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	+0.00	-0.01	-0.01	-0.08	+0.01	+0.09	-0.3	-0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-1.1	+0.03	+0.02	-0.01	-0.04	+0.05	+0.09	-0.4	+0.6	+0.3	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-1.2	+0.02	+0.00	-0.01	-0.09	+0.00	+0.09	-0.4	+0.6	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	-0.01	-0.01	-0.01	+0.02	+0.09	+0.07	-0.4	-0.0	+0.3	

(注)為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：フィラデルフィアはシカゴとNYどちらに近い？

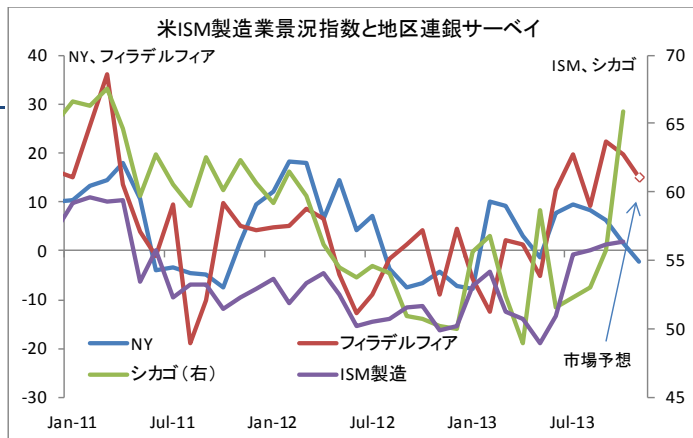
本日の相場材料としては、①中国11月HSBC製造業PMI速報値(10:45、前月50.9、市場予想50.8)、②日銀金融政策決定(発表時刻未定。市場予想は政策変更なし。過去09年以降では、4月、10月の第2回会合で政策変更なしの場合の平均結果発表時刻は13:24)、およびその後の黒田日銀総裁定例記者会見、③ユーロ圏11月各種PMI速報値(18:00、製造業分は前月51.3、市場予想51.5)、④Stevens・RBA総裁発言(18:05)、⑤

Draghi・ECB 総裁発言 (19:00)、⑥米新規失業保険申請件数 (22:30、前週 33.9 万件、市場予想 33.5 万件)、⑦Powell・FRB 理事発言 (23:45、金融規制関連、中立、投票権あり)、⑧米 11 月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ (0:00、前月 19.8、市場予想 15.0)、⑨Weidmann 独連銀総裁発言 (1:00、タカ派)、⑩Lacker リッチモンド連銀総裁発言 (2:30、タカ派、投票権なし)、⑪Bullard セントルイス連銀総裁発言 (3:00、ややハト派、投票権あり)、などが予定されている。

ドル/円は米経済指標結果や Fed 高官発言に左右されつつ 100 円を挟んだもみ合いの展開が続いている。目先の方向性にとり決定打となり得るのはやはり 12 月 6 日発表の 11 月分雇用統計だろう。日銀について注目が高まるのは来年 4 月の消費増税後の景気悪化の程度如何による追加緩和観測で、それまでは当面円相場の材料となりにくい状況が続こう。本日注目度が高いのはフィラデルフィア連銀製造業サーベイで、先日発表の NY 連銀製造業景況指数が大きく悪化したことからフィラデルフィア分もある程度の悪化が予想されているが、市場予想を更に下回るようだと ISM の悪化が意識されドル売り圧力となろう。なお、ISM と最も相関が高いのはシカゴ分である一方、前月大きく改善していたシカゴ分と、今回大きく悪化した NY 分とで大きな離れがみられており、全体的な傾向を読み取りにくくなっている点、米景気回復の強さと量的緩和縮小のタイミングを見る上での今回の統計の重要度は低いかもしれない。

各地区連銀製造業サーベイの全米分 (ISM) との相関 (09 年以降)

	NY	フィラ	シカゴ
水準の相関	0.78	0.85	0.87
前月比変化幅の相関	0.20	0.15	0.28



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。